

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201819		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 コスモス		
所在地	〒859-3236 佐世保市南風崎町119-4 (電話) 0956-59-2455		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	一部 3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 梶田医院・千住病院・佐世保中央病院・川原歯科
---------	-----------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年設立された当ホームは、国道に面し交通量が多いが、ホーム内は静かな環境が保たれている。ホーム1階は駐車場及びスタッフルームがあり、2階が居室、3階は屋上でエレベーターで昇降できる。系列の医療機関が隣接し、「緊急時の対応が速やかにできる」など支援体制が整っている。介護理念は「みのりたたえる稲穂のように、何時までも自分らしくあり続ける時をおくる」を全職員が念頭においてサービスの提供に努めている。近隣住民の理解や協力体制などの確立に前向きに取り組まれている事が窺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	身体拘束を無くすため、委員会を設けて勉強会を開催している。又、身体拘束を希望されるご家族へ、理解を求める働きかけを継続している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価によって客観的に介護のあり方を見つめ直し、職員の意識改革とサービス向上のため同系列の他のグループホーム職員も参加して、月1回勉強会を実施されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、曜日を統一して開催している。会議内容は職員に伝え、サービス向上に努めているが、市町村担当者の参加が少なく、今後は、連絡、運営推進会議への参加の強化及び市町村の相談員制度やボランティアの活用など取り組んでいかれることを期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム入り口に意見箱を設置しているが、相談・苦情等はなく、家族が帰られる時に個別に話を聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	交通の便が良い場所で、駅やバス停、郵便局や商店などがある。職員同伴で郵便局や商店に行き、顔なじみの関係を継続できている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年に入ってから、理念を【実りたたる稲穂のようにいつまでも自分らしくあり続ける時を送る】に見直しされ、玄関に掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭に置き、日々の介護に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加されており、地域住民の訪問があり、踊りの披露や園児との交流を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価によって客観的に介護のあり方を見つめ直し、職員の意識改革とサービス向上のため同系列の他のグループホーム職員も参加して、月1回勉強会を実施されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回曜日を決めて運営推進会議を開催行っている。家族と町内会長など参加され、会議後は必ず職員にも伝えて、意見を踏まえて介護へ取り組まれている。		市町村担当者の参加が少なく、連絡、運営推進会議への参加の強化が望まれる。

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時は、市町村担当者と話し合う機会を作っている。		市町村の相談員制度やボランティアの活用など今後取り組んでいかれることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況報告し、遠方の家族へは定期的に電話連絡行っている。又、現在、ホーム便りが途切れているが、近況報告のハガキを出すよう準備中である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置行っている。面会時は必ず家族と話し合う機会を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職などあったが、顔なじみの職員が異動してきたため、入居者への影響は特に見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修が月1～2回開催されている。参加できなかった職員には研修内容の伝達がされている。外部研修への参加も促している。		朝、夕の煩雑な時間帯での服薬ミスが発生した事があることから、職員間のコミュニケーション及び服薬の重要性などの指導強化が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、2ヶ月に1回管理者会議や勉強会にも参加し交流の場がある。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の訪問や家族を交えて施設内の見学などを通して、馴染みながらのサービスの開始を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者から教わる事が多く、相互に支え合う関係ができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>すべての方の希望に沿うことは困難だが、その人の思いを理解・支援をし、本人本位の介護を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人が望んでいることが何かを踏まえ、その人に合った介護計画の作成を行っている。基本的に6ヶ月に1回、計画の見直しを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態の変化に伴う計画変更や見直しを行っている。</p>		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物の支援や、遠方の方にはスタッフが付き添い、帰省の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接病院受診や遠方の病院受診を、本人や家族が望まれる時は家族が連れて行き、主治医との連絡も密に行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族と話し合い、医師とも相談しながら希望に沿うよう支援を行っている。又、隣接の病院に入退院を繰り返しながら、施設での看取りを行った経緯もある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の重要性は全職員が認識し、日々の反省や職員間で話し合いを行なっている。又、トイレが各居室に設置しており、紙パンツやオムツ使用者が布パンツに移行している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、穏やかに楽しく暮らせるよう支援を行っている。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、一緒に準備や食事、片付け等のお手伝いをしてもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、入浴日を決めているが、本人の希望するタイミングに合わせて入浴の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの役割を入居者が自覚され、できる事はお手伝いなど楽しんで行ってもらっている。又、手芸など上手にできる方もおられ、趣味を無理のない程度に楽しまれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望が強い入居者には、状態を見ながら商店街に付き添う等、できる限りの支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないため、常に見守る等の支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練の実施を行っている。又、運営推進会議でも有事の際の協力をお願いしている。		

グループホーム みのりの里コスモス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量の把握を行っている。又、必要に応じてとろみがついた食品を摂取する支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に畳の間があり、壁には入居者の手作り作品を飾り付けてある。又、家庭的雰囲気と季節感を取り入れた共用空間作りができており、レースカーテンで日差し対策を行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物(箸、湯のみ)や居室に小さな家具など持ち込んでもらうようにしている。		